

仏教学専攻

【加藤善朗】「妙徳寺蔵仏涅槃図について」

釈迦入滅の情景を描いた涅槃図の国宝・重文指定品は 42 点（金棺出現図 1 点、八相涅槃図 7 点をふくむ）を数える。宗派に関わらずこれほど多く作成された仏画は類例がない。

本年度は愛知県額田郡幸田町に所在する妙徳寺蔵仏涅槃図について調査をおこなった。本図は箱書きとして「仏涅槃図 芦峰筆」とある。芦峰とは丸山芦峰あるいは滝川芦峰と名乗った人物の作品であることがわかれると考えられる。『平安人物志』によると丸山芦峰は明治 35 年にその名が見える。また滝川芦峰は『明治一五年絵画共進会出品画家々名一覧』にその名が見える。そのうち滝川芦峰は出山釈迦図等の仏画が見られることから、本作も滝川芦峰のものであろうか。

さて、この涅槃図は、令和 4 年から約 1 年間の歳月を要して岡崎文経堂（岡崎市桑原町）において昨年修理された。紙本の剥落がおさえられ汚れ除去により画面全体が明るくなり、筆致や彩色みごとによみがえった。表装を改められたことにより、100 を超えるアイテムが色鮮やかになり 53 人の人物の表情も豊かによみがえった。

全体の様式から近代のものと考えられる。本論ではこの妙徳寺蔵本の図像的特色に着目して、複合的な視点から考察し、本図の意匠を要求した背景について考察した。

本図の特徴は釈迦の体軀を上面向け両脚を閉じ揃えて描いている点が京都国立博物館本のように古様をとどめている。ただ右手をもって手枕をしている点が、京都国立博物館のものとは異なっている。

本図の特徴としては構図は近世に流通したいわゆる一般的な涅槃図である。頭北面西にして東壁に掲げて礼拝するようにしつらえられている。より細部に目をやると、

- ①蓮華座に坐す錫杖と宝珠を持つ地蔵菩薩（1-1）を釈迦の宝床の中央部分に描く点。
- ②盛り飯をささげた純那（1-38）を釈迦の足元面端に描くこと。
- ③摩訶迦葉ではなく、舎衛国の老女（1-10）を描くこと。

という特徴をもつ。

釈尊の身体を皆金色に描く点、横臥し右手で手枕をする姿勢で描かれることである。このような形式は、室町以降一般的になる。これらの特徴を備える遺品は数多く確認できる。宝床（釈迦が寝ている直方体のベッド）のうち釈尊の頭の側を見せる様式であり、足側の側面をみせる金剛峯寺本、京都国立博物館本、新薬師寺本、誓願寺蔵本の構図とはことなっている。

阿那律（1-92）に引率される夫人一行（1-93 1-94 1-95 1-96 1-97）という、いわば〈他界〉か

らの来訪者が画面情報左奥から描かれている。極楽の宝鳥・迦陵頻伽（1-65）は中空を舞うのではなく宝床手前の禽獣に混じる定位置に描かれている。

この妙徳寺蔵本は、140 に及ぶ事物・人物・禽獣類を描き込んでいる。このような登場人物の多さは、涅槃図に織り込まれた物語と題材上の豊かさを示していることになろう。

【高城宏明】

【山田洋巳】「FCR 法（ファジィ多項目並列評定法）で得られる矛盾度と被験者（消費者）の選好度との関係性（関連性）について」

1. 学会発表実績

日本経営システム学会第 71 回全国研究発表大会（2023 年 11 月 18 日・19 日 東北大学青葉山キャンパス）にて、「FCR 矛盾度の選好度への影響～ FCR 法アルゴリズムによる比較～」という論題にて発表した。

2. 概要

本研究では、高萩ら[1]、小田、高萩[2]により新しく提案された ϕ_s 変換法（ファジィ測度）による FCR 法及び、複合スコア法 1 の他の矛盾度指標を使用して、複合スコア法 1 の従来の矛盾度指標と比較して、商品に対する認知度別の選好度に対して、どのような影響を及ぼしているのか比較、考察した。

（1）FCR 法

FCR 法は、ファジィ理論を応用した評定尺度法である。FCR 法では、評定尺度法の項目をそれぞれ独立尺度（肯定尺度と否定尺度）として、全尺度に応答させる（図 1）。

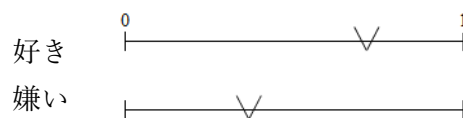


図 1 FCR 法による応答例

FCR 法で得られた複数応答を 1 つの代表的な数値に集約したものが、統合値である。

（2）複合スコア法 1（従来の矛盾度指標）

複合スコア法 1 による統合値 I_4 は、次のように求める。ただし、肯定応答値を p 、否定応答値を n とし、 $p, n \in [0, 1]$ である。

$$\text{統合値 } I_4 = \begin{cases} 0.5 & \begin{pmatrix} p = n = 0 \\ p = n = 1 \end{pmatrix} \\ \frac{p}{p+n} & 0 < p+n \leq 1 \\ \frac{1-n}{2-p-n} & p+n > 1 \end{cases}$$

また、従来よく使われて来た「定和からのずれの矛盾度」 C_3 は、 $C_3 = p + n - 1$.
と定義されている．[3][4]

(3) ϕ_s 変換法(ファジィ測度)による FCR 法

ϕ_s 変換法(ファジィ測度)による統合値 I_{fm} , C_{fm} は、次のように求める．ただし、肯定応答値を p , 否定応答値を n とし、 $p, n \in [0,1]$ である．

$$I_{fm} = \begin{cases} p & \text{if } p+n=1 \\ 0.5 & \text{if } p=n \\ 1 & \text{if } (p=1) \vee (n=0) \\ 0 & \text{if } (p=0) \vee (n=1) \\ \frac{\log\left(\frac{1-p}{n}\right)}{\log\left\{\frac{(1-p)(1-n)}{pn}\right\}} & \text{other} \end{cases}$$

また、

$$C_{fm} = \begin{cases} 0 & \text{if } p+n=1 \\ -1 & \text{if } (p=0) \vee (n=0) \\ \frac{2}{1+\sqrt{\frac{(1-p)(1-n)}{pn}}} - 1 & \text{other} \end{cases}$$

となる．[1]

(4) 複合スコア法 1 (他の矛盾度指標)

他の矛盾度指標である矛盾度 C_6 は

$$C_6 = \begin{cases} \frac{1-n-p}{n-p-1} & \text{if } n \geq p \\ \frac{n+p-1}{1+n-p} & \text{if } n < p \end{cases}$$

となる．[2]

(5) 選好度の算出 (コムリーの恒常和法)

コムリーの恒常和法は、一対比較という状態での数値配分データから、商品の選好度尺度を求めるために工夫された方法である．

まず、ブランドを $j, k = 1, 2, \dots, m$, 対象者を $i = 1, 2, \dots, N$, 対象者 i がブランド k との比較においてブランド j に与えた得点を $p_i(jk)$ として、その平均値を要素とする行列を $V = (v_{jk})$

とする.

論理として、次の構造モデルを仮定する.

$$\mu = Dx + e$$

ここで、 μ は次式で表すことができる.

$$\mu_{jk} = \log v_{jk} - \log v_{kj}$$

D は一対比較データの構造モデルを表すのに用いられ、自動的に定められる. 未知のパラメータは x だけであり、それについては次の制約条件をおく.

$$c'x = 0$$

ただし、 c' は 1 を要素にした m 次の行ベクトルである.

これらの式の下、 Dx で μ を予測するときの残差の二乗和である $e'e$ を最小にするように x を定める. x が求まれば,

$$s = (\exp x_j)$$

の式により選好度ベクトル s を得ることができる. [5][6]

なお、選好度の算出に際し、 $p_i(jk) = 10I_4$ 又は、 $p_i(jk) = 10I_{fm}$ としている.

(6) 質問紙調査

質問紙調査は、愛知工業大学生を被験者とし、2018 年 7 月に実施した.

質問紙調査では、3 社の特保コーラ、0 キロカロリーコーラ、通常のコーラについて、FCR 法を利用した一対比較をして、好きな度合い、嫌いな度合いを回答してもらった.

(7) 被験者のグループ分け

被験者の付けた点数を矛盾度 ($10C_3, 10C_{fm}, 10C_6$) < -1 , $1 < \text{矛盾度} (10C_3, 10C_{fm}, 10C_6)$ (以降: グループ A と記述する.) と $-1 \leq \text{矛盾度} (10C_3, 10C_{fm}, 10C_6) \leq 1$ (以降: グループ B と記述する.) のグループに分ける. 更に、グループ別に、被験者の付けた点数を求め、それを認知度別 (1: 全く知らない, 2: 知らない, 3: 知っている, 4: よく知っている) に分ける. ここで、認知度「1: 全く知らない」, 「4: よく知っている」の被験者が少ないため、被験者を第 1 群 (1: 全く知らない, 2: 知らない), 第 2 群 (3: 知っている, 4: よく知っている) に分けた.

(8) 分析結果からの考察

矛盾度が大きいグループ A の場合、選好度は第 1 群と第 2 群でほぼ逆の傾向にある. これは、第 1 群の回答では、ブランドが矛盾の要因となり、第 2 群の回答では、価格が矛盾の要因となっていると考えられる.

矛盾度が小さいグループ B の場合では、矛盾度 $10C_3$ と矛盾度 $10C_6$ では比較的同じ傾向にあり、矛盾度 $10C_{fm}$ は、逆の傾向を示している. これは、FCR の違いに起因することは間違いないと考えられる.

認知度が低い第 1 群では、どの FCR 法でも比較的同じ傾向を表している点から、認知度が低い場合は、FCR 法の違いによる選好度への影響はあまりないと考えられる。

参考文献

- [1] 高萩栄一郎, 山田洋巳, 小田哲久: “ ϕ_s 変換法(ファジィ測度)による FCR 法の展開ー直観的説明と N 項目への拡張ー”, 日本知能情報ファジィ学会・東海支部 第 54 回東海ファジィ研究会, S3-01, (2023)
- [2] 小田哲久, 高萩栄一郎: “FCR 法矛盾度の新提案ーファジィ測度による FCR 法アルゴリズムを参考にしてー”, 日本知能情報ファジィ学会・ソフトサイエンス研究部会 第 27 回ソフトサイエンス・ワークショップ, A1-1, (2017)
- [3] 小田哲久: “ファジィ多項目評定法の特徴について”, 日本経営システム学会誌, Vol.12, No.1, pp.23-32, (1995)
- [4] 小田哲久: “FCR 法の新アルゴリズムー提案と数値的分析による比較ー”, 日本経営工学会論文誌, 51(2), pp.93-107, (2000)
- [5] Comrey, A. L.: “A proposed method for absolute ratio scaling.”, pp.317-325, Psychometrika 15, (1950)
- [6] 武藤真介, 朝野熙彦: 「新商品開発のためのリサーチ入門」, pp.190-191, pp.208-213, 有斐閣, (1986)

【伊藤真昭】「近世在京大名家菩提寺の研究ー知恩院塔頭先求院を素材にしてー」

室町時代京都には幕府が置かれ、大名の菩提寺も創建された。ところが江戸時代になると幕府は江戸に移り、菩提寺も江戸に創建され、京都の菩提寺とは関係が希薄化する。近世大名の菩提寺研究は国元と江戸の菩提寺に注目するが、京都の本山級寺院の実相はあまり明らかになっていない。そこに先求院の事例を新たに加えることになる。

先求院は浄土宗総本山知恩院山内にある塔頭寺院であるが、その開基は徳川四天王の一人、酒井忠次である。酒井忠次は徳川家康が天下を取る前の 1596 年 10 月 28 日、政権の中心地が上方にある時期京都において亡くなり、その遺骸は遺言により知恩院山内に葬られた。法名は先求院天誉高月縁心居士といい、その菩提寺として先求院が山内に建立された。

しかしその後 1600 年の関ヶ原の戦い後政権の中心地は江戸に移り、酒井家もいくつかの転封後、出羽庄内に定着した。以後の当主大督寺に葬られたため、酒井家と先求院との関係は疎遠となっていく。

ただ酒井忠次の一族が先求院に様々な援助を行っていた。特に忠次の子息であり、本多家の養子となった康俊を祖とする膳所藩本多家は地理的に近いこともあり、毎年扶持米を寄進して

先求院を支えていた。その他酒井忠次の孫世代には、嫡孫酒井忠勝・牧野忠成・本田俊次・小笠原貞信は、先求院の客殿や庫裏の破損修理料として、それぞれ寄進しているところから、大きな出費を伴う事態には先求院の寄付依頼に依っていたようである。

そのような中、1745 年（延享二年）は酒井忠次の 150 回忌であり、その機を捉えて先求院は酒井家から寄付を引き出し、建物の修理や什具の新調を計画した。その経緯が記された史料が『先求院殿百五十回忌記録』である。その中身から忠次の死後 150 年経過した段階での酒井家と遠隔地にある菩提寺との関係を探ってみる。

この記録の冒頭には、150 回忌の法事をお願いを大坂役人に願い出ていることが記される。つまりは酒井家からの依頼で法事を執行してもらうのではなく、先求院側からの要請であったことがわかる。またその申請先は国元や江戸藩邸ではなく、大坂役人であった。

大坂役人が京都の先求院にやってきた際、先求院は打敷・幕・桃燈等の新調をお願い出たが、役人は即答せず江戸に問い合わせるという返事であった。さらに仏具等の寄進については、難しいと思うが江戸に問い合わせるという返事であった。

実際江戸からの返事は、いろいろな値段が上がっているのも、新規に申し込まれたものは認めがたく、先例の通りとするとの返事であった。先例とは 100 回忌のことだと思われるが、その際は銀 100 枚であったので今回も同額だと言うことである。しかし者の根岩が上がっているということは実際には減額回答であった。法事当日には江戸から家老水野内蔵助が派遣されるということであった。10 月 15 日には、銀 100 枚と打ち敷・幕・桃燈が届けられ、また畳が新調された。これらが酒井家からの寄進であった。

法要は 10 月 25 日から 28 日までの四日間で、当日は酒井忠休・忠郷・忠顕の酒井家一族、本多康敏、小笠原信房などの親戚筋も使者を派遣している。僧侶側では、山内の他の塔頭も出勤し、26 日から 28 日までの日中法要には知恩院住職が導師を勤めた。

また酒井家側の裏方として御用達坂倉金十郎と小松屋惣兵衛が関わっていることが確認できる。彼等は大坂役人神尾弥一右衛門とともに、法事の執行に関わっており、酒井家との関係での関与と思われる。

このように大名家側は菩提寺側の申し出に応じて法要を執行することは、先祖供養のため拒否することはできないが、菩提寺側の要請を全て受け入れていたわけではなかった。遠隔地の菩提寺側はこうした大きな行事を通して大名家と疎遠にならないよう努力しなければならなかった。

なお 2023 年度浄土宗総合学術大会で一部を発表した。

【川本真佐美】「非漢字圏日本語学習者のための漢字教材開発」

本学別科に在籍する非漢字圏日本語学習者 25 名（秋学期は 28 名）を対象に、2023 年 6 月

から 2024 年 2 月まで教育実践を行った。本研究が目指す web 教材開発の面では、道半ばにある。今後は、実践報告発表や、教材の試用等、研究の進展を図りたい。

【小野功一郎】「ネットショップ経営疑似体験ボードゲームの開発～ビジネスゲーム E コマース版の開発」

この研究は、E コマース（電子商取引）市場の拡大と人材不足問題に対応するため、学生に実践的な E コマースの知識とスキルを身につけさせることを目的としています。この目的の達成のために、ネットショップ経営疑似体験ボードゲームが開発され、学生の間で実施されました。このボードゲームを通じて、学生たちは商品の選択、価格設定、広告戦略、在庫管理など、実際のネットビジネス取引に必要な要素を学びます。学生たちはこのゲームを楽しみながら、実践的な知識を身につけ、E コマースに関する理解を深めました。

研究の背景として、インターネットの普及に伴う E コマース市場の急速な拡大と、それに伴う専門的な知識と技術を持つ人材の不足が指摘されています。特に、現代の消費者の購買行動の変化により、オンラインでの購入が増加しており、E コマースの市場規模は今後も拡大すると予想されています。このような状況に対応するためには、E コマースの事業や Web マーケティング戦略等を推進できる専門的な知識と技術を持つ人材の育成が必要不可欠です。

しかし、現状では E コマースの専門的な知識と技術を持つ人材が不足しており、教育機関の教育カリキュラムが E コマース業界の急速な発展に追いついていないことが問題となっています。この問題に対処するために、実践的な E コマース教育の強化が必要だとされています。そして、ゲーミフィケーションを通じた教育が、実践的な E コマース教育を強化する有効な方法であると提案されています。ゲーミフィケーションにより、学生たちは学習意欲を高め、より深く、実践的に E コマースについて理解することができます。

ビジネスゲーム E コマース版の導入により、学生からは非常に肯定的な反応が得られました。学生たちは、このゲームを通じて、ビジネスの理論だけでなく、実践的な知識も身につける機会を得ることができました。アンケート結果からは、市場シミュレーションの面白さや、経営についての深い理解、利益の出し方の理解など、学生たちが実践的な知識を得ることができたことが伺えます。

この研究は、E コマース市場の拡大と人材不足問題に対応するための一つの有効な手段として、ネットショップ経営疑似体験ボードゲームの開発とその教育的効果を示しています。

学生の反応

- ・利益を出すためには、仕入れ価格と販売価格の差をどのように管理するかが重要だと感じた。
- ・このゲームを通じて、E コマースの流れがよく理解できた。
- ・在庫管理や価格設定の重要性がわかった。

・ SNS を使った宣伝の効果を実感することができた。

本研究を通じて、実践的な E コマース教育の有効性が確認された。ビジネスゲーム E コマース版を使用することで、学生たちは E コマースの基本的な知識だけでなく、実際のビジネス運営における意思決定の難しさや、市場分析の重要性を学ぶことができた。また、ゲーミフィケーションによる学習は、学生たちの関心を引きつけ、より積極的な参加を促すことができた。本研究により開発されたネットショップ経営疑似体験ボードゲームは、E コマース市場の拡大と人材不足問題に対応する教育ツールとしての有効性を示した。学生たちの肯定的な反応からも、理論だけでなく実践的な知識の獲得に貢献していることがわかる。しかし、これはあくまで E コマース教育の一環として利用することが望ましく、実際のビジネス運営に必要な知識やスキルを総合的に身につけるためには、さらに多角的な教育プログラムの開発と実践が求められる。

将来的には、このゲームを更に発展させ、E コマースに関連するさまざまな側面をカバーできるような教材開発に向けて、継続的な研究が必要である。また、オンラインプラットフォームを利用したバーチャルなシミュレーション教育への応用も考えられる。これにより、より実践に近い形での E コマース教育が実現可能となり、次世代のビジネスリーダー育成に寄与することが期待される。

【矢野裕子】「特別な配慮を要する家庭の子どもたちへの支援となる絵本の分析」

絵本は、子どもの心を育みより良い人間関係を構築する一助となると考えられる。読み聞かせの文化ともいえるほど、わが国でも、絵本の読み聞かせは子育ての中に根付いている。

「保育の場ならではの絵本との出会い」の特徴として、子どもが絵本の世界を体験する際の自分ひとりの内的な体験と、一緒に絵本を読みあった友達や保育者との共有体験という2つの特徴がある。絵本の読み聞かせは、親子の人間関係の構築のために重要な役割を果たしているとともに、保育の場での絵本がもたらす共有体験は子ども同士の人間関係の構築や保育士と子どもとの人間関係の構築のためにも重要な役割を果たしていると考えられる。

本稿では、特別な配慮を要する家庭の子どもたちへの支援となる絵本について考察した。具体的には、1. 核家族化や地域とのつながりの希薄化による孤立した子育てのなかで、育児不安を抱える親、2. 精神疾患（鬱病を含む）や発達障害、知的障害を抱える親、3. 障がい（障がいの疑い）のある子どもを持つ親、4. ひとり親家庭と離婚後の面会交流、5. 継親の役割と継親子関係の難しさを抱えるステップファミリー、6. 外国籍をもつ親、7. 経済的な問題を抱える家庭、8. ファミリーバイオレンス（早期発見と通告が必要な児童虐待家庭、ドメスティック・バイオレンス家庭）である。

研究の目的

本稿では、特別な配慮を必要とする家庭に暮らす子どもたちやその家族を題材に取り上げている絵本を分析し、現場の保育士らが絵本の読み聞かせを通して子どもへの支援に役立て、クラスの子どもたち同士の理解と人間関係構築のための一助となるための基礎的資料を得ることを目的とする。保育園や幼稚園において、絵本の読み聞かせの効果としては、クラスの子どもたちにも、特別な配慮が必要とされる家庭に育つ友だちの環境や気持ちが具体的にわかるであろうと考えられる。

調査方法

- ①家庭支援論の授業内に、グループワークとして「特別な配慮が必要な家族」のテーマの中から、各グループに一つのテーマを選ぶ。まず実態をつかみ、子どものニーズと親のニーズを考える。そして、保育士として、どのような支援ができるかをまとめ発表する。さらに、テーマに沿った絵本を1冊選び、読み聞かせをする。
- ②絵本を選ぶ方法としては、データベース「子どもの心を理解するための絵本」や、絵本ナビ、国会図書館リサーチナビを用いて調べる。或いは短期大学内図書館、長岡京市図書館に出向いて実際に絵本を手にとって探す。
- ③家庭支援論の授業の最終日に、「保育園や幼稚園の先生になった時に、子どもたちに読み聞かせをしたい絵本」を一人5冊、順位をつけて選出する。3年に渡ってデータを収集する。

【江藤高志】「実信房蓮生・信生兄弟の釈教歌とその表現方法——証空の講義録との関わり——」

今年度は、実信房蓮生・信生兄弟のうち、蓮生を中心に研究を行った。実信房蓮(れん)生(しょう)(一一七八年～一二五九年)は、俗名を宇都宮頼(より)綱(つな)と言い、関東下野国の御家人宇都宮氏の第五代当主である。その取り組み方として、二つの観点を通して考察した。その第一は、蓮生の詠んだ釈教歌の表現方法である。第二は、蓮生をとりまく人物関係と事件から、詠歌の背景を探る方法である。

第一の観点に基づいた研究として、『新後撰和歌集』にある、「水想観」を題材に詠んだ実信房蓮生の釈教歌を取り上げて考察した。その和歌表現について検討する過程で、『観経疏』『自筆鈔』『観無量寿経義疏』などの経典・仏教教理の影響がみられることがわかった。また、『新後撰和歌集』釈教部では、「十六観」を題材として「日想観」「像想観」が他の歌人に詠まれている。それらの歌人に比して、早くから活躍していた蓮生は、「十六観」を詠む歌人の先駆者として位置づけられることが想定できるので、今後もさらに調査検討を進め、釈教歌の表現史における位置づけを考察してゆく予定である。加えて、仏教教理の教義にも着目し、証空の講義録を含めたそれぞれの注釈書の教義上の位置づけをふまえながら精密に検討を重ねてゆく予定である。

第二の観点に基づいた研究として、蓮生と関わりの深い人物を取り上げて、彼の生涯と和歌

活動とのつながりを通時的に考察した。具体的には、西山浄土宗の師である証空をはじめ、和歌の師匠である藤原定家、宇都宮氏の当主として関わる幕府の北条泰時の三人の生涯を年表にまとめ対照させた。それらの比較検討から、蓮生と彼らにおける和歌の贈答の詞書き及びその和歌を合わせてゆくことで、歴史的事実の因果関係を補うことができ、反対に詠歌の背景が明確化できる部分もみえてきた。今後は、さらに対象とする人物を広げて網羅的に調査し、詠歌の背景事情を明らかにしたいと考えている。

以上の、二つの研究は途上であるけれども、第一の観点に基づいた研究は、2023年12月に、令和五年度西山学会研究発表会（於西山浄土宗総本山光明寺）にて、「実信房蓮生（宇都宮頼綱）の釈教歌にみえる水想観」として口頭発表を行った。第二の観点に基づいた研究は、2024年1月に2023年度京都西山短期大学公開講座（於京都西山短期大学）にて、「蓮生（宇都宮頼綱）が歩んだ軌跡とその和歌——証空・藤原定家・北条氏を通して——」として講演を行った。今後はこれまでの研究成果を論文にまとめて公表することを予定している。

仏教保育専攻

【高橋司】「児童文化財としてのパネルシアターの教材開発」

パネルシアターが創案されて、今年度で50年になる。その間、幼稚園・保育所・認定こども園の他、小学校、特別支援学校、子ども会、読み語り会、各施設、子育て支援、図書館等で活用されてきたのは周知のことである。

浄土宗の僧侶である古宇田亮順は、当初、仏教や浄土宗の難解な教義を、檀信徒にわかりやすく知らせるために、キリスト教の宣教師が世界各地で使用していた「フランネングラフ」とは異なるパネルシアターを創案し、布教することを編み出したのである。それがやがて、保育や療育指導にも役立つことがわかり、一躍市民権を得るようになってきた。

筆者はパネルシアター（古宇田亮順）に出合って、49年になる。この4月に自身50周年を迎える。その間16本のYouTubeをアップし、4冊の作品集を公刊してきた。また、浄土宗においては、パネルシアター委員会の委員長を15年にわたって務め、微力ながらその普及に貢献してきた（現在は普及推進員）。

今年度は、3本の新作を創作したが、その中の「おふろにだあれ？」は、出版社の目に留まり、本年5月に出版の予定の運びとなった。「おふろにだあれ？」は、京都在住の人形劇団「あ」の創案によるものであるが、パネルシアターに創り替えることにより、より優れた効果が見えると思い、昨年来より創作を進め、子どもたちへの発表の機会を次々と持ってきた。

その結果、今までのパネルシアターにない大胆なタッチの絵人形、単純なドンデン返し、やや複雑なトリック技法、子どもたちとのやりとり、間、テンポ、リズム等々により、明らかに子どもたちが大きな反応を示し、新たなパネルシアターの世界が広がったものと認識している。

実際、東京・淑徳大学のパネルシアター教育研究会の研修会でも現場指導者に好評を得た。それは、現場の指導者から「創りたい」の声をたくさんいただいたことから自明である。自分自身も楽しく演じることができ、子どもたちのことばの表現活動に必ずや役立つと確信した次第である。対象としては、乳幼児から小学校低学年の子どもを取り込む作品にしていきたいと考えている。

現在、出版社とのやりとりを通して、出版に向けて改良を進めており、3月12日東京において第一回目の打ち合わせを行う予定である。5月の出版を目指し、大東出版社と精力的なやり取りを通して、半世紀を迎えたパネルシアターの世界に新しい息吹を吹き込むべく鋭意努力している。

高橋司監修・神門康子絵「おふろにだあれ？」大塔出版社

【伊藤華野】「養成校における特別な配慮を必要とするこどもの兄弟や家族への「開かれた場づくり」に向けて」

研究にまつわる今年度の活動実績

①「特別な配慮児」の多くは幼少期からのトラウマによる二次障害を併発することが知られている。トラウマケアの一助となるよう海外招聘講演及び早期トラウマアプローチ NEST(神経感情身体化自己システム療法・Sandra Paulsen PhD) 研修を受講し、臨床心理士としての技術面の研鑽を行った。

②トラウマ処理に定評のあるEMDR技術のうち、こどもへの「左右両側性の刺激」に関する有効性と方法に関する口頭発表を行った(日本EMDR学会第18回大会)。

③特別な配慮児や親へのケアに活用してきた「こどもヨーガ」の方法と有効性に関する研究報告会「特別な配慮を必要とする子どもへのヨーガ」およびシンポジウムを企画開催し、一連の報告書を投稿した。

④「発達のご案内になるこども保護者対象—こころとからだのストレスケア講座—」に対する京都西山短期大学による協力許可の申請をした(フライアには「長岡京市民間社会福祉活動振興助成対象事業、長岡京市教育委員会共催、京都西山短期大学 協力」と提示)。10月より実働を開始し、主に長岡京市中央生涯学習センターにて、発達を促す遊びの提供と親への相談業務に協力をした。1回のみ光明寺紅葉の時期に短大の施設を借用し、こどもと兄弟家族が広々のびのびと動きを楽しむことができた。最終回には本学こども教育コース心理学教員による講演会「脳の情報処理システム違い—ユニーク脳の仕組みカラクリ」が予定されている(R6年3月23日 於・中央生涯学習センター)。

⑤長岡京市市民企画講座に申請をし、本学こども教育コース心理学臨床心理士教員(非常勤)と共に講座を担当した。幼児期から小学校低学年で不安症傾向の強い子どもや場面緘黙の子ど

もと兄弟と親へのワークショップと相談業務を行っている（R 6 年 3 月 23 日午後、於・中央公民館）。卒業生がアシスタントに入り、その様子が京都新聞洛西版の記事にも掲載された（令和 5 年 9 月 18 日）。

課題と展望

長岡京市唯一の保育者養成校として設置され間もなく 18 年目を迎える。国の方針、法改正や保育、教育にまつわる最新で専門的な情報を提供できるのが養成校の特徴である。今年度は協力活動に留まったが、将来的には教員や学生の領分の発揮できる方法での短大主催の「開かれた場づくり」の実現を願いたい。

【木本雅子】「ピアノ学習者の幼児曲のピアノ演奏における効果的な学習方法」

保育士、幼稚園教諭等の教員養成校では、ピアノ実技が必修科目となっているが、多くの学生がピアノ初学者である。ピアノ初学者の学生が、短期間で多数の幼児曲を習得する方法として、右手の旋律に着目し、幼児曲を指のポジション移動による分析、パターン化、分類を行い、それをもとに難易度順に学習を進めていく学習方法が効果的であると考え、この学習方法の実践を試みた。その結果、短期間に多くの幼児曲のレパートリーを習得する成果が得られた。授業では、先ず、指使いや音型に基づいて導き出されたパターンを示し、そのパターンによるポジション移動の説明を行い、ポジション移動を理解させた上で練習に取り組ませた。この方法で学習し、旋律や曲の構造を考えつつ練習することを学ぶ姿勢が生まれ、この学習方法の有効性が認められた。

また、数曲をこの学習方法で学ばせた後、敢えて指使いなどを記さずに楽譜を配布したところ、各自で指使いのパターンを見つけて奏する事が出来、学習方法の定着を確認することが出来た。類似したパターンの曲を、1 つのグループとしてまとめて練習をさせると、指使いと音型のパターンをより強く意識し、理解を深めることが出来、練習に取り組めやすくなることも確認出来た。数曲を同時に弾けるようになり、この事は学習意欲を高めることにも繋がった。授業最後のアンケート調査では、ほとんどの学生が、この学習方法で学ぶことにより、弾きやすくなったと回答し、初学者だけではなく、ピアノ経験者にもこの学習方法の有効性が確認出来た。さらに、この方法を他のピアノ曲の学習にも応用する可能性も示された。今回、ポジション移動の全くない曲から始め、主に 3 つまでのポジションに限って学習をさせたが、ポジション移動が増えれば、同時に指使いも複雑になり、指使いも一通りではなく、二通り三通りと考えられる。それ故パターンも同じ曲で何通りも考えられることが可能になる。

今後は、初学者が、出来るだけ取り組みやすく、容易に弾けるパターンや移動を考え、短期間で多くの曲が習得出来るように、今後も幼児曲の分析や分類を行い、提案したいと考えている。初学者が、効率よく練習に取り組むことが出来、ゆとりを持って音楽表現豊かな幼児曲を

演奏出来るように、より効果的な学習方法を考えていきたい。

【松岡哲雄】「ビジョントレーニングについての研究推進活動」

2023 年度も前年に引き続きビジョントレーニングについて研究を行った。ビジョントレーニングとは、見る力を高め、見たものや自分の体の動きを正しく認識したり（ボディーイメージ）、体を自分のイメージ通りに動かしたりする（ボディーコントロール）機能を高めるトレーニングである。五感の情報は視覚 83%、次いで聴覚が 11%で、残りの嗅覚 3.5%、味覚 1.5%、触覚 1%だといわれている様に、視覚から受け取る情報が一番多く、視覚を鍛え素早く正確に体を動かせるようになることが、日常生活や学習の躓きの解消・暗記力の向上・運動能力を向上・車などの運転中の認知力の向上・高齢者の認知症予防などに役立ったりすることも、多数報告されている。また加藤（2009）によると、ビジョントレーニングを行うと前頭葉の内側の広い部分に血流と酸素が集まり、また第一次視覚野が位置する後頭葉以外の脳の成長を促す効果もあると報告されている。前頭葉は人間の運動、言語、思考、判断を司る場所であるので、ビジョントレーニングをすることでそれらの能力の発達を促すことが期待できる。

そのビジョントレーニングについて主に取り組んだものは、下記の 3 点である。

1 点目は、西山学苑研究紀要 第 18 号 2023 年 3 月「眼の運動機能を高める前庭動眼反射が表れる運動遊びの研究」を踏まえてさらに研究を深めるための研究予算確保の為、科学研究費助成事業に対して研究題目「ミニトランポリンを使用した見る力を高めるビジョントレーニングの研究」として基盤研究(C)の区分で申請を行った。本研究の概要を下記に述べる。

「本研究は見る力（視覚機能）の発達の著しい幼児期に、ミニトランポリンを使って見る力を高めることを目的とする。眼球を上下左右に動かし、見る力を高めるビジョントレーニングをすることで、生活面、学習面、運動面の躓きの改善や運動能力の向上などの報告は、学校やスポーツ界でも多く報じられている。しかし幼児は、眼を上下左右に動かす単調なトレーニング自体を苦手に行っていることを目の当たりにした。眼球運動は、随意性眼球運動以外に、自分の意思とは関係なく表れる反射性の眼球運動がある。そこで申請者は、反射性眼球運動の前庭動眼反射が大きく表れるミニトランポリンを使用しながら、様々な遊びを行うことで、幼児が楽しみながら見る力も高められることを明らかにしたい。」

2 点目は、私自身が研究しているビジョントレーニングに関する研究の発展をさらに促進させ、学会員相互の交流及び協力を推進することを目的に、2023 年 8 年に日本視覚学会並びに NPO 次世代生命医学研究所所属の奥山文雄先生を会長にお招きし、ビジョントレーニング学会を設立した。私自身は事務方に付き事務局長として学会を支えている。（ビジョントレーニング学会（<https://visiontrainingsociety.jimdofree.com/>）学会会員数：2 月現在 58 名

3 点目は、ビジョントレーニングの教育現場での普及・振興活動の為に、非営利団体として

一般社団法人ビジョントレーニング協会を設立し、「ビジョントレーニング資格認定講座」を行っている。ならびに私自身が、講師として登壇している。この講座には、後援で大阪市教育委員会並びにビジョントレーニング学会がついて頂いている。このビジョントレーニング資格認定講座では幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校などの教員や児童発達支援施設や放課後等デイサービス事業所の方々が多く受講されている。

今後も学外以外の研究資金の獲得も目指していきながら自らの研究を深め、研究成果の社会への還元、地域社会との交流推進を通じて社会に貢献していきたい。

【小坂智子】「発達障害児・者の親の自己愛と心的外傷後成長（PTG）の関連：スティグマを媒介とした自己愛と PTG の検証」

小坂（2023）によると、発達障害児・者の親の中に心的外傷後成長（以下 PTG とする）を実感しながらもネガティブな感情（スティグマ）を抱き続けている状態の人が 41 パーセントいることが、量的調査によって示唆された。しかし、PTG とスティグマの相関は無く、PTG とスティグマによるネガティブな感情を抱え続けることの関連は明確になっていない。そこで、PTG とネガティブな感情が併存する不安定な状態から、スティグマが減少し安定した状態の PTG に至るきっかけとして、小坂（2022）において見出された、調査協力者が「自分に自信をつけていく」状態、つまり健全な自己愛（優越感・有能感、自己主張性）に注目した。自分に自信がある状態、すなわち自己愛が高い状態だとスティグマは低減し PTG が助長され、安定した状態になり、反対に、自分に自信がない、自尊感情の低い状態、即ち傷つきやすい過敏な自己愛（注目賞賛欲求）が、ネガティブな特徴を持つスティグマを助長し PTG を抑制するため、ネガティブな特徴と PTG が併存している不安定な状態を作りだしているという仮説をもとに、発達障害児・者の親を対象とし、その自己愛のタイプがスティグマを媒介して、PTG 実感に及ぼす影響を量的調査によって検証することを目的とした。

方法 対象者：発達障害児・者の親 175 人を対象とした。質問紙：(1) 心的外傷後成長尺度短縮版（Cann, et al, 2010）(2) セルフ・スティグマ尺度短縮版（Mak & Cheung, 2010）(3) 自己愛人格目録短縮版（小塩, 1999）30 項目 5 件法。手続き：調査会社（株式会社アイブリッジ）に調査を依頼し、オンラインの回答フォーム（Freeasy）にて質問紙調査を実施した。分析の手続き：全ての尺度で探索的因子分析を主因子法プロマックス回転で行い、尺度間の相関を求めた。次に、調査協力者を PTG とスティグマの尺度によりクラスター分析（平方ユークリッド距離、Ward 法、Z 得点にて標準化）により分類した。さらに、クラスターごとに自己愛 3 因子（「優越感・有能感」「自己主張性」「注目賞賛欲求」）得点をそれぞれ説明変数、スティグマを媒介変数、PTG を目的変数とし、媒介効果を検証した。

結果と考察 心的外傷後成長尺度とセルフ・スティグマ尺度間に弱い負の相関が認められた

($r = -.189$)。また、クラスター分析の結果、4つのクラスターに分類され、第2群(52人)にPTG、スティグマ共に高い特徴がみとめられた。

自己愛3因子(「優越感・有能感」「自己主張性」「注目賞賛欲求」)得点をそれぞれ説明変数、スティグマを媒介変数、PTGを目的変数とし、媒介効果を検証した結果、「優越感・有能感」得点からPTGへの直接効果($z = 6.128, p < .001$)、総合効果($z = 6.041, p < .001$)は有意であったが、間接効果はみとめられなかった($\beta = 2.780 \times 10^{-4}, p = .851$)。同様に、「自己主張性」得点からPTGへの直接効果($\beta = .060, p < .001$)、総合効果($\beta = .059, p < .001$)は有意であったが、間接効果はみとめられなかった($z = -0.119, p = .905$)。

一方、「注目賞賛欲求」得点からPTGへの直接効果($z = 4.318, p < .001$)、間接効果($z = -2.140, p < .005$)、総合効果($z = 3.572, p < .001$)とすべてにおいて効果が有意となった。また、「スティグマ」得点から「PTG」得点への標準化パス係数が有意であった($\beta = -.251, p < .001$)。「注目賞賛欲求」得点から「スティグマ」得点への標準化パス係数も有意であり($\beta = .024, p < .01$)、「注目賞賛欲求」得点から「PTG」得点への標準化パス係数も有意であった($\beta = .036, p < .001$)。

以上から、スティグマはネガティブな感情や行動と関連、且つ低PTGと関連していると考えられる。また、自分に注目して欲しいという想いが満たされていない状態が、スティグマをより助長させると共に、PTG実感を阻害させて不安定な状態になっているのではないかとということが考えられる。しかしながら、本研究のPTGとスティグマの併存への自己愛(注目賞賛欲求)の関連の結果はあくまでも有意傾向に過ぎず、今後、サンプルサイズを増やしての更なる検証が望まれる。

なお詳細は『西山学苑研究紀要第19号』(2024)に発表した。